物語合

由或人來談也、

〔百練抄八高倉〕治承二年六月十九日、上皇御所有角合事、天下營只在此事、

〔榮花物語三十七烟の後〕せんだいをば後朱雀院とぞ申める、その院のたかくらどの、女四宮をこそは齋院とは申めれ、〇中略物語合とて、いまあたらしくつくりて、ひだり右かたわきて、廿人あはせなどせさせ給て、いとおかしかりけり、

〔後拾遺和歌集十五雜〕五月五日、六條前齋院に、ものがたりあはせし侍けるに、小辨をそくいだすとて、かたの人々とめて、つぎの物がたりをいだし侍ければ、宇治の前太政大臣、かの小辨がもの語は、見どころなどやあらんとて、こともものがたりをとゞめてまち侍ければ、岩がきぬまといふものがたりをいだすとてよみはべりける、　小辨

引すつる岩がきぬまの菖蒲草思ゑらずもけふにあふかな

雙紙合

〔袋草紙遺編上〕後朱雀皇女正子内親王造紙合、判者不見之講師左四位少將右兵衛佐、左銀透筥、蓋入古今繪七帖、新繪銀造紙一帖、右銀透筥、納繪造紙六帖、新歌繪銀草子一帖、

〔續世繼二紅葉の御狩〕白河院は、〇中略御めのとの二位も、かん日に參りそめられたりけるとかや、〇中略從二位親子のさうし合とて、人々よき歌どもよみて侍るも、いとやさしくこそきこえ侍りしか、

〔金葉和歌集四冬〕從二位藤原親子家のさうし合に、ゑぐれをよめる、　修理大夫顯季

ゑぐれつゝかつちる山の紅葉をいかに吹よのあらしなるらむ

〔金葉和歌集七戀〕從二位藤原親子家の雙紙合に、戀の心をよめる、　宣源法師

いまはたゞねられぬいをぞ友にする戀しき人のゆかりとおもへば

〔吾妻鏡二十一〕建暦三年〇建保元年正月十二日甲寅、幕府女房等有雙紙合會、將軍家〇源實朝令判之給云